

令和6年度国立大学法人東京海洋大学第3回経営協議会議事要録

日 時 令和6年12月17日（火）14：00～16：15
場 所 楽水会館 大会議室（品川地区）及び Webexによるビデオ会議
出席者 井関学長、五十嵐委員、池田委員、井手委員、井上委員、河村委員、関根委員、
松本委員、吉武委員、舞田理事、金岡理事、村上理事、工藤理事、渡辺理事、
岡安学術研究院長
オブザーバー 藤原監事、加藤監事、婁副学長、黒瀬学長補佐、廣野学長補佐、
後藤海洋生命科学部長、元田海洋工学部長、宮本海洋資源環境学部長、
兵藤海洋科学技術研究科長
事務担当者 永井総務部長、塚本財務部長、笹田学務部長、平尾総務課長ほか事務関係者

議 事

【審議事項】

1 重要な財産の譲渡について

村上理事から、資料1に基づき、重要な財産の譲渡について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

2 中期計画の変更について

学長から、資料2に基づき、中期計画の変更について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

【意見交換】

1 東京海洋大学における人材育成の方向性について

学長及び村上理事から、資料3に基づき、東京海洋大学における人材育成の方向性について説明があり、意見交換を行った。

主な質疑応答は以下のとおり。（○：質問及び意見 ●：回答）

- 卓越大学院プログラム履修学生と企業等との関係性構築に資する海洋A I マッチング Week のような取組みは、企業側は優秀な学生に自社を知ってもらう機会になり、学生側は企業が抱える諸問題等の発見につながる機会になる。学生だけでなく教員も企業を訪れ、企業が抱える課題を知ってもらう機会があると良い。それらの課題を研究テーマとして教員から学生へ提供いただけると良いのではないか。
- 社会人教育を推進する場合、大学側がどういった価値を提供できるかを考えることが重要である。リーダーシップや当事者意識などの「ソフトスキル」は企業で教えることが困難であり、企業とは異なる環境での学び（教授の研究指導等）を通して、このようなソフト

スキルを向上させることができるのと有り難い。現場体験ができることは大学の強みであり、これらを通じソフトスキルも身につくのではと考える。また、人材の流動性が高まっており、個人のニーズに応じて短期間のプログラムを提供するなど、企業と大学を柔軟に往復できる仕組みがあると良いのではないかと。

- 博士については、研究遂行の仕方、論文にまとめるテクニック、プレゼンテーション等の指導を行っているが、求められるソフトスキルの育成につながっているか不明な部分もあるので、ご助言を踏まえ大学としても対応していきたい。なお、ソフトスキルの育成にはアクティブラーニングも有効であると考えており、卓越大学院プログラムではアクティブラーニングの講義「海洋 AI ワークショップ」を開講している。今後もこのような講義を提供していきたい。
- これからの日本のおかれた状況を考えると、世界をフィールドとして卒業生・修了生が活躍していく未来が必要である。そのためにも、研究力を高めることが大学院の人材育成の魅力高める鍵となる。例えばプロジェクトの研究代表者となるような研究者については定年年齢を超えても活躍できるような制度があっても良いのではないかと。
- 研究力強化は最も重要な課題の一つである。本年3月に「海の研究戦略マネジメント機構」を立ち上げ、本学の研究戦略の司令塔として様々な対策を検討しており、これから効果が出てくることを期待している。また、研究者の多様な活用方法についても、他大学や民間の状況を参考にしながら検討していきたい。

以上

配付資料

○令和6年度第2回経営協議会議事要録（案）

資料1 重要な財産の譲渡について

資料2 中期計画の変更について

資料3 東京海洋大学における人材育成の方向性について